

1. はじめに

国の発展の源泉は、国内各分野の活力にあることは言うまでもない。わが国においては、欧米各国と比べて急激な出生率の低下に伴い、将来の若年労働力人口の減少による経済活動の停滞、ひいては国の発展が阻害される恐れがあることが各分野において認められ、対応が急がれているところである。

近代国家としてのわが国の発展は、国内各分野の努力により目ざましいものがあったが、高度の成長を果たして来た現在、国際社会とのバランスの中で社会的、経済的にも今までとは異なる形での発展が求められている。このよう環境の中で近い将来の若年労働力人口不足に対処するためにも、高度成長を主体的に達成してきた中高年齢者の経歴を活用することが必要である。

しかしながら社会的、経済的に成熟期に入り今までのような高度成長は望むべくもなく、また、社会、経済システムが高度化し、しかも今までとはまったく異なる形の発展を遂げようとするわが国の国家的要請の中では、中高年齢者の従来経歴の延長線上における力量の発揮のみでは社会的、経済的にも満足されないことは明らかである。また、中高年齢者の雇用環境は、現在では長引く不況の影響も加わり更に悪化し、定年退職後の再就職にも厳しさが増している。

こうした不況の中で、企業内でも個人のキャリアを生かした職業能力開発が行われ、職域拡大による職務再配置が行われ、企業の高度成長経済活動の結果として肥大化したホワイトカラー層のキャリアアップによる効率化が求められているところである。

以上のような状況から職業能力開発のスタンスとして、定年後の個人的な条件を基に社会生活をどのようにするかを見据えた上で、中高年齢者が多様な選択肢のなかから職業能力開発テーマを選び、機能的に訓練を受けていくことができるようなシステムとすることが必要である。このことから今後、新たな訓練システムや訓練機材の整備を急がねばならない。

当CAI開発部会では、こうした背景を踏まえ、中高年齢者ホワイトカラーの能力開発テーマのうち、わが国の社会、経済活動の中でコンピュータを使った業務遂行が必須条件となっている現状から、中高年齢者が業務遂行の道具としてコンピュータを容易に活用できるようにすることが、能力開発の条件であり、また職域拡大の基本条件であるとの認識に基づき、コンピュータを使う教材はどうあるべきかを検討しながら、CAI (Computer Assisted Instruction) の開発を進めてきた。